

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る地域説明会質疑応答等

2.質問と回答（要旨）

連番	意見区分	質問（要旨）	回答（要旨）
1	1.見直し全般について	通学区域の見直しはいつから適用になりますか。	今後の検討の状況にもよりますが、早ければ今年度末までに方向性を決め、令和六年度に一年かけて周知し、令和七年度にご入学のお子様から適用となる予定です。
2	1.見直し全般について	今回の検討は、通学区域の見直しありきの話で進んでいるのですか。	今後の学級数の推計等を踏まえ、通学区域の見直しは実施する必要があるのではないかと考えています。このたびの地域説明会や意見募集でいただいたご意見も参考にさせていただきながら検討協議会において引き続き検討してまいります。
3	1.見直し全般について	四谷小学校の三校統合時から、四谷小学校を盛り上げていこうと努力してくださっている方もいます。今回の通学区域を変えることによって、これからは「四谷小学校ではなくて、花園小学校を応援してください」となった場合、それは地域にとって良いことなのでしょうか。	通学区域を見直した場合でも緩和策を実施していく予定であり、希望する方は、今までどおりに四谷小学校に通学いただけるようにします。その上で、花園小学校にも魅力を感じてもらい選択していただけるような取組を進めていきたいと考えていますので、地域の皆様のご協力をお願いします。
4	1.見直し全般について	通学区域の変更に伴い、他に何か付随して変更になるようなものや課題などはありますか。例えば避難所など。	現在、四谷ひろばが避難所に指定されている地域については、通学区域が変更になっても変わる予定はありません。それ以外の課題としては、例えば民生委員や主任児童委員など学校とのつながりが深く、子どもたちを見守っていただいている地域の方々へ広く周知しながら、引き続きご支援いただけるような体制を取っていくことが大切であると考えています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る地域説明会質疑応答等

2.質問と回答（要旨）

連番	意見区分	質問（要旨）	回答（要旨）
5	2.検証資料・通学区域の分け方について	検証資料7（四谷四丁目と富久町8番・9番を花園小学校へ変更）の通学区域の見直しをした場合、令和7年度の花園小学校の児童数は何人になりますか。	令和7年度入学予定の対象地域の児童が四谷小学校からは花園小学校へ全員入学する想定で試算した場合、一年生が36人、二年生が20人、三年生が16人、四年生が16人、五年生が19人、六年生が24人の合計131人です。
6	2.検証資料・通学区域の分け方について	検討協議会は、今回の検証資料をもとに決めるのですか。	あくまでも検証のための資料であり見直し案ではありません。またこの中から必ず決めるものでもありません。この資料は仮に変更になった場合、中学校区との兼ね合いや、通学距離や学級数への影響がどうなるのかという幅広い観点から、検討協議会での検討の参考にさせていただくための検証資料になります。
7	2.検証資料・通学区域の分け方について	これまでの検討協議会資料では別に四谷坂町、片町の今後の児童数予測も入っていますか。	検討協議会資料では本日皆様にお渡ししている地域説明会資料と同じ内容のものになっています。
8	2.検証資料・通学区域の分け方について	富久小学校とか四谷第六小学校を選択できる検討はないのでしょうか。	今回の検証資料の中には、富久小学校に変更した場合（検証資料3・4）や四谷第六小学校に変更した場合（検証資料5）のシミュレーションはあります。なお、指定校変更制度もあるため、現在でも希望の小学校があれば指定校変更制度において、選択することもできます。
9	2.検証資料・通学区域の分け方について	検証資料は、児童数が増加している四谷小学校をどこに振り分けるかという検証を拠点にしているということでしょうか。	今回の検証資料は、四谷小学校の児童数が増加している現状から、児童数を減少させるための対策として、四谷小学校の通学区域において、他の小学校と隣り合っている地域の通学区域を変更した場合を仮定して、中学校区との兼ね合いや、通学距離や学級数への影響などを確認するための資料としています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る地域説明会質疑応答等

2.質問と回答（要旨）

連番	意見区分	質問（要旨）	回答（要旨）
10	3.緩和策について	通学区域の見直しに伴う緩和策を行った場合、全員が元の四谷小学校を選んだとしたら、効果は出ますか。	仮に全員が元の四谷小学校を選んだ場合は通学区域の見直しの効果は生じませんが、花園小学校に魅力を感じてもらい多くの方に選択していただけるような取組を進めていきたいと考えています。
11	7.四谷ひろば等の活用について	四谷ひろばの扱いについて、今後の考えを教えてください。	四谷ひろばは、利用者が多いため、その利用を停止するか、もしくは代替施設を作らない限り学校としては使えません。また、新たな学校の開設については、現在の教員自体が足りない状況下では教員の配置が難しいと思っています。教員は東京都の採用になるため、区で採用することはできません。こうしたことから新たな学校の開設は現実的ではないと認識しています。
12	8.その他	四谷地区に比べて、新宿地区の人口が少ないのは、どのような背景がありますか。	新宿一丁目から五丁目あたりは商業ビルが多いことと、ファミリー世帯向けのマンションより、単身や二人世帯を想定した規模のマンションが多く作られているといった背景があると思います。
13	8.その他	通学区域の見直しをした場合、何人ぐらいが移動すると学級数が変わると考えますか。	令和七年度では、四谷小学校の一年生が115人の4学級を見込んでいますので、通学区域の見直しにより10人移動すれば3学級に変わります。一方、花園小学校の令和七年度の一年生は、17人の1学級を見込んでいるため、通学区域の見直しにより19人増加すれば2学級に変わります。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る地域説明会質疑応答等

2.質問と回答（要旨）

連番	意見区分	質問（要旨）	回答（要旨）
14	8.その他	三校統廃合時は、児童数の予測についてはどのような資料に基づいて検討していましたか。	東京都の教育人口推計をベースに検討しており、この推計では、分析に使う期間が前年度の動向を踏まえた単年度での推計値となっています。現在は三年や六年平均といったより長い期間での推計に改善しています。
15	8.その他	四谷小学校の児童数が増加したから少ない学校に振り分けようという話ではないと思います。花園小学校の児童がなぜ少ないのか、四谷小学校の児童がなぜ多いのか理由は何でしょうか。	四谷小学校の地区では、様々な建物が建て替えられ、ファミリー世帯向けの住戸を含めたマンションなどが多く建てられるようになり、転入者が増えました。 一方、花園小学校の地区のマンションでは商業ビルが多いことと、ファミリー世帯向けのマンションより、単身や二人世帯を想定した規模のマンションが多く作られているといった背景があると思います。
16	8.その他	現在の四谷小学校の通学区域は、いつ頃に設定されたものでしょうか。	現在の四谷小学校の通学区域は、平成19年度に四谷小学校が四谷第一小学校、四谷第三小学校、四谷第四小学校の3校が統合された通学区域になりますので、平成19年度から今の通学区域になっています。
17	8.その他	指定校変更が認められる条件として、学童との関係や、お迎えに来る人との関係など特段の事情がない限り、変更は難しいという認識で合っていますか。	指定校変更制度には、様々な要件があるとともに、それぞれの受け入れ先の学校の状況を踏まえて判断することになります。現在、四谷小学校においては教室環境等により通学区域外からの児童を受け入れる余裕がないため、指定校変更は兄弟が在籍している場合などに限定させていただいています。

四谷地区における区立小学校の通学区域の見直しや緩和等の検討に係る地域説明会質疑応答等

2.質問と回答（要旨）

連番	意見区分	質問（要旨）	回答（要旨）
18	8.その他	四谷小学校のグラウンドが狭いため、子ども達は運動不足になっていないでしょうか。どのような対応を取っていますか。	現在、四谷小学校では中休みを取る学年と15分授業を行う学年を分けて設定することで、子どもたちが安全に校庭で活動できるようにするなどの工夫をしています。 また、工事期間中は、今年度からコモレ四谷の中にある四谷スポーツスクエアを借用して、学校が体育の授業やクラブ活動で使いたい時に利用できるように関係部署と調整しながら、子どもたちの教育環境を確保するように取り組んでいます。